

## 第27回 広瀬川創生プラン策定推進協議会議事録

- **日 時**：平成 27 年 1 月 30 日（金曜日） 13：30～15：30
- **場 所**：青葉区役所 9階第2会議室
- **出席委員**：江成 敬次郎 会長，伊藤 絹子 会長代理，工藤 智 委員，工藤 秀也 委員，  
後藤 淳 委員，佐藤 学 委員，菅井 一男 委員，杉山 ふじ子 委員，  
西大立目 祥子 委員，平舘 淳一 委員，
- **欠席委員**：及川 稔 委員，金野 昌弘 委員，坂口 純子 委員，深松 努 委員，  
宮原 育子 委員，
- **事務局**：建設局百年の杜推進部河川課
- **司 会**：河川課 安田 敏弘 課長
- **次 第**：1 開 会  
2 会長挨拶  
3 議 事  
(1) 広瀬川創生プランの改定について  
(2) 平成27年度重点事業の設定について  
4 閉 会

### ■ 議 事 録：

#### 1. 開会

##### ○司会（安田課長）

ただ今より「第27回 広瀬川創生プラン策定推進協議会（以下、協議会）」を開会する。  
本日は、及川委員，金野委員，坂口委員，深松委員，宮原委員からは所用により欠席との連絡をいただいている。

#### 2. 会長挨拶

お忙しいところ参加いただき感謝する。

協議会では、平成 25 年度から広瀬川創生プラン(以下、プラン)の改定作業を進めてきた。現行のプランは、もともとは 50 年計画を目指して市民側から提出された素案が基になっており、当面の 10 年について定めた計画である。この 10 年の取り組みによる成果と様々な課題も見えてきた。

次の 10 年に向けて、次期プランの一層の充実に向けて活発に議論いただきたい。

#### 3. 議事

##### ○司会（安田課長）

出席委員が過半数に達しており，本日の会議は成立している。以降の議事の進行については江成会長に願います。

## ○江成会長

今回の議事録署名は五十音順で工藤 智 委員にお願いしたいがいかがか。

=一同了承=

### **(1) 広瀬川創生プランの改定について**

#### ○江成会長

「広瀬川創生プランの改定について」を事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局(広瀬川創生室 杉井室長)

【第26回協議会において指摘された事項について】

・市民ファンドの定義の記載について

⇒パブリックコメント募集時には定義を追記した改定案を使用した

・パブリックコメントの募集時の改定案冊子の設置について

⇒アンケート用紙と共に窓口に冊子も設置し、必要に応じて配布

・次世代の“人づくり“に関する取り組みについて

⇒アンケートの実施や、教育局と調整中。今回の改定には盛り込めないが、具体的取組事業として、今後反映させていく。

資料1に基づき、幹事会意見及び市民意見募集の結果を報告のうへ、そのうち、改定版に反映させる内容について説明。市民意見の詳細は資料2、市民意見を受けて修正した改定案を資料3に基づき説明。

#### ○江成会長

何か意見・質問などあるか。

---

#### ○江成会長

新たに記載した取組事業である「SCPピクニック」等は、実際に行っている団体があるということか。

#### ○事務局(広瀬川創生室 杉井室長)

資料3のP27の内容で、平成25年度からNPO法人都市デザインワークスが実施している。また、同じく新たに取組事業として「広瀬川中流域景観まちづくり協議会」を掲載しており、名称が行政側の取り組みに見えるが、NPO法人水・環境ネット東北が事務局を務める任意団体として、今年度より流域の探訪活動などを実施されている。

---

#### ○後藤委員

P18, P47に記載のある親水性の向上について、これまでも協議会を中心に広瀬川と市民との距離を縮めるために様々な取り組みが実施されてきた。市民と広瀬川の距離を縮めるには何らかの必然性が必要である。広瀬川沿いで業を営む方が少ないのが現状であり、パブリックコメントの中でも流域へのカフェ等の設置を望む声があったが、そういった施設があると日常的に広瀬川に親しむことに繋がる。公設民営でも構わないと思うので、

事業者を呼び込む事で市民と広瀬川の距離が縮まる。

P18に記載のある親水性の向上について、“日常的に”市民が広瀬川に親しめる視点が必要である。イベントの実施でも短期的な効果はあるが、生活の中で広瀬川を感じられる取り組みを考えていく必要がある。

その仕組みを考える上で、市民ファンドについて「ふるさと納税」を募るなど、資金の調達方法も検討することとしてはどうか。

### ○伊藤会長代理

日常の中で気づく機会を作っていくことは大切である。以前にもカフェの設置などの話もあったと記憶している。

先日テレビで、どこかの地域の森の再生について資金の募集したところ地元だけでなく様々な人が資金提供に協力した事例が紹介されていた。ファンドについても、考え方に共感できれば資金を出す方もいるはずである。

### ○菅井委員

宮沢緑地で毎年4月から11月まで貸しボートを運営している。ボートを待つ間に利用できる飲食店等や、パラソルやテーブルを設置して利用者が休めるスペースを望む声もある。「広瀬川ボートくらぶ」では単発で1日-2日の間、カフェを実施したところ大変好評であった。

パブリックコメントにあるように、水飲み場・駐車場・トイレなどの要望も多い。今後10年で、こういった動きを取り込んでいければ良い。

### ○事務局(広瀬川創生室 杉井室長)

まず、河川敷地でのカフェ等について補足させていただく。平成23年3月に「河川敷地占用許可準則」が見直され、「都市及び地域再生等のために利用する施設に係る占用の特例」として、民間事業者による河川敷地での営利活動が制度上可能となった。河川管理者が「都市・地域再生等利用区域」を指定し、占用の方針、占用主体を定め、利用調整に関する協議会等の活用などにより地域の合意を図るなど一定の要件を満たす必要がある。地域としての機運が高まれば、可能性が出てくる。「ボートくらぶ」が実施したカフェについては県と相談して、反復性が無く、特段の工作物の設置を要しないことから単発のイベント扱いとして試験運用としている。

次に施設設置については、過去に宮沢緑地周辺の市有地にトイレの設置を検討し、予算措置までしていたが、地元住民の理解が得られず頓挫した経緯がある。この点についても地元の理解が必要である。

ファンドの財源検討については、今後の検討において活かしていきたい。

### ○杉山委員

地下鉄東西線の国際センター駅にNPO等が活用できるスペースができると聞いた。先日のフォーラムで聞いた話では、都市デザインワークスが実際にスペースの活用を計画している様である。市民会館の1階スペースや、青葉山公園の整備等も含めて、利活用について協議会として関わっていければと考えている。

### ○仙台市(吉川 建設局長)

先週実際に見てきたが、国際センター駅の2階には広瀬川を望むスペースがあり、様々

な市民活動ができるスペースも確保している。また、国際センターとなりには展示棟も完成し、青葉山公園には公園センターの設置を考えている。この周辺空間は仙台市民のみならず外部からも多くの人を訪れるため、市民の意見も聞きながら西公園の再整備も合わせて進めているところである。

ふるさと納税については、メディアで取り上げられる事例は小さな市町村の取り組みが多い。納税者に対する地域特産品の提供など、メリットの創出も過熱している。ふるさと納税は、住民が市町村に納める税金を仙台市に納めてもらうことになることから、なかなか踏み込めない。

やはり、先ほどの伊藤会長代理の意見のように、考え方に賛同する人に協力していただく形が、本来の姿だと考えている。

### ○平舘委員

賑わいと活力のある水辺の創出を目指す「ミズベリング・プロジェクト」を紹介させていただく。「ミズベリング・プロジェクト」をインターネットで検索していただくと水辺空間の利活用について様々な事例があり、各地域で取り組みが盛り上がっている。話のあった宮沢緑地については県管理なので、県に相談してみると良い。

### ○仙台市(岡本 公園課長)

国際センター駅について補足させていただく。国際センター駅2階部分は市民の方に貸し出すことを予定していると聞いている。市民局市民協働参画課が中心となっているもので、先日は仙台国際センター展示棟の完成記念式典でもこのスペースが紹介され、一時的にカフェを実施するなどの方法もあるという話であった。

青葉山公園の公園センターについては、3カ年にわたり埋蔵文化財の調査を追廻地区で実施しており来年度がまとめの年となる。昨日の委員会では文化財に配慮することとして公園センター建設の了解をもらい、いよいよ計画を進めていく段階となった。

民間活力の導入として、例えばカフェを実施する際に店を出せる企業が有るか、市民団体による史跡の案内をしていただく際に、どのような施設が求められるのか、といったニーズ調査を踏まえて計画を検討したい。そこでもご意見をいただきながら進めていきたい。

---

### ○江成会長

3つの基本理念のうち2つ目に「まちづくり」の視点を加えた点が大きなポイントである。先ほどの議論のとおり、まちづくりには様々な計画が関連してくるものである。

その意味で、広瀬川創生プランと他の関連計画との繋がりを記載する必要であると幹事会でも判断したが、広瀬川創生プランは内容が多岐にわたり特定の上位計画を持たないことから、事務局としては記載が困難と判断したようである。

恐らく事務局も、他の様々な計画との関連が強まってきていること、また、強めていかなければならないことについては、同じ思いであると推察している。文面を工夫して他の計画との関係を記載することで、まちづくりの視点を補う方向で検討していただきたい。そのうえで今後は、まちづくりに活かすための議論の場を設けていく必要がある。

### ○工藤秀也委員

一昨日、広瀬川1万人プロジェクト主催のフォーラムを開催した。その中で仙台市建設局渋谷次長の来賓挨拶で、仙台市の下水道等に関する話もうかがった。そういった事も含めて広瀬川を切り口としたまちづくりであり、青葉山公園の整備方法や利活用、上流域の保水力低下の問題など、議論していく必要を再認識した。

#### ○事務局(安田 河川課長)

広瀬川創生プランは各主体の取組事業を集約したもので、仙台市の特定の計画を上位に持つものではなく、また、その枠に縛られるものではない。しかしながら今回の改定は、まちづくりの視点の強化が重要な要素であることから、協議会での議論を踏まえ、記載方法に何らかの修正を加えたい。

#### ○仙台市(吉川 建設局長)

少なくとも、広瀬川創生プランに掲載する事業が仙台市の計画と不整合を起こすことはない。市民側の取り組みも掲載していることから、市の計画に縛られるものではないという河川課長の発言である。

#### ○伊藤会長代理

具体的には10ページの「計画の位置づけ」の表現を修正するという事で良いか。

#### ○事務局(安田 河川課長)

その通りである。

#### ○伊藤会長代理

他の計画との関係性の記載は、幹事会の後に事務局として掲載困難と判断した様だが、ピッタリと枠にはめることができなくとも、互いに影響しあえる下地が必要である。

また、改定にあたり原点の確認をしたい。1ページ目の経緯で、「仙台開府四百年記念事業で市の呼びかけに応じて・・・」とあるが、仙台市としてはどのような意図で呼びかけを行ったのか、可能であれば記載して欲しい。

#### ○江成会長

では、計画の位置付けについて表現を修正すること、仙台開府四百年記念事業で市民に対し呼びかけを行った理由について記載することとし、具体的な表現方法については幹事会預かりとしてよいか。

＝一同了承＝

---

## (2) 平成27年度重点事業の設定について

#### ○江成会長

「平成27年度重点事業の設定について」を事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局(広瀬川創生室 杉井室長)

資料4に基づき説明

従来の事業に加え、新たに「広瀬川市民会議の運営体制の強化検討」を掲げている。

#### ○江成会長

何か意見・質問などあるか。

---

## ○江成会長

6 ページ目の負担金申請上限額の書き方だが、重点事業3と重点事業4を合わせて30万円との記載だが、どちらかと言えば重点事業3に関わる事ではないか。

## ○事務局(広瀬川創生室 杉井室長)

重点事業4を進めるためのフォーラム開催という場合も想定し、重点事業3と4は境界が難しいことから、合計額で記載している。

## ○江成会長

重点事業3のアイラブ広瀬川プロジェクトで取り扱う範囲を広く設定しているので、重点事業3に組み込まれるものと考えていた。合計額で記載するにしても重点事業3と4の合計額であることが分かりやすい記載にしていきたい。

---

## ○江成会長

今年度の広瀬川で遊ぼうは地元との連携を模索しながら助走期間として実施したが、どういった状況か。

## ○工藤秀也委員

地元の方が実施する「若林区広瀬川文化祭プロジェクト実行委員会」との連携を目指していたが、なかなか進んでおらず、地元の方を中心に立ち上がっていただきたいところである。

## ○菅井委員

ここ数年、広瀬川で遊ぼうの実行委員長を務めている。広瀬川市民会議は事務運営で非常に苦勞されている。重点事業4に広瀬川1万人プロジェクトと広瀬川市民会議の提携の話もあるが、将来像を見据えてイベントの扱いも考えていく必要がある。市民会議主体の体制から、地域の新たな体制づくりも視野に入れていく必要がある。

## ○江成会長

時間の制約の中で、将来的な展望を持ちながら来年度の体制を並行して検討する必要がある。宮沢緑地のイベントにおいては、やはりボートが一番のポイントであることから、アイデアとして、広瀬川で遊ぼうを引き継ぐ事業として「広瀬川でボートで遊ぼう」への移行も考えられる。ボートを中心として、出店などは無理のない範囲で行うものである。

## ○菅井委員

やはり鍵になるのは人である。積極的に活動してくれる人がどの位いるのか見極めながら、機運が熟せば割と簡単に実施できるかもしれない。そういった視点も持ちながら、進めていきたい。

---

## ○江成会長

一昨日、広瀬川1万人プロジェクト主催フォーラムが開催された。狙いのひとつが、企業との関わり方のノウハウを探ることにあつた。NPO法人荒川クリーンエイドフォーラムの発表が参考になった。印象的だったのが、企業のCSRに関わる活動はきっかけ作りにはなるが、継続していくためには、人事関係の部門とコンタクトを取る事が必要

とのことであった。荒川の事例では、企業の新人研修としてゴミ拾いのプログラムを提供し、対価を受け取る仕組みを作っていた。環境に対する意識が低い人も、研修を通して関心を持つきっかけとなる。

広瀬川で遊ぼうも、1万人プロジェクトの実行委員会に協力していただき、新人教育に取り込んでいただくことも考えられるのではないか。広瀬川市民会議と1万人プロジェクトとの提携のための、ひとつのステップにもなる。

#### ○工藤智委員

広瀬川に出かけていただく必然性をもっとアピールすることで、市民の関心が高まり、組織体制の検討の際に生きてくる可能性もある。そのためには、各種メディアなどをもっと活用していく必要がある。

例えば、ジョギング愛好家は国内外に多数いる。市内で一番人気があるのは広瀬川境界であり、「仙台・宮城ランナーズボイス (<http://runners-voice.com/>)」というホームページをご覧くださいと分かるが、広瀬川の緑地も紹介されている。ジョギングも広瀬川に出かけるための、ひとつの必然性である。

#### ○工藤秀也委員

面白駅伝を実施してきた菅井委員から何か意見はないか。

#### ○菅井委員

地域の人を中心にあって3回ほど実施した。回を重ねると段々疲れてくるので、如何に活動を持続させるかが課題である。また、実際にやってみないと分からないことも多い。広瀬川ボートくらぶも当初は地域の反対にあったが、結果としては反対していた方が会員になっている。

宮沢緑地のトイレの話もあったが、仙台市で予算化までしたが地域の人々の反対があった。反対した人からは、今なら良いよという意見も聞いている。参画する人の気持ちがどれだけポジティブになれるか、どうやって醸成していくかが重要である。

---

#### ○江成会長

他に意見がなければ、来年度の重点事業としては事務局案で良いか。

＝一同了承＝

#### ○江成会長

他に意見・質問がなければ、以上の内容を事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

#### 4. 閉会

##### ○司会（安田課長）

本日も指摘いただいた改定案に対する修正は、幹事会において修正内容を確認していただく。また、広瀬川で遊ぼうについては「市政だより」4月号掲載の締切期日の関係もあり、近いうちに内容を詰めさせていただく。

これをもって「第27回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を終了する。

以上